

烏川流域

烏川は、摺上川最大の支流である。界境稜線に源を発し、うねうねと複雑に蛇行しながら流れ下る。

烏川本流筋の大部分はゆるやかな流れとなつてみるべきものもないが、流れ込む支沢にはなかなかおもしろいものがある。

アプローチとしては、上流部は旧一三号国道を、中・下流部は烏川林道を利用すると良い。ただし旧一三号国道には、車を乗り入れることはできない。

この地域は非常に奥行きが深いうえ、人家は一軒も存在しない。しかし、かつては様々な人間活動の舞台であった。

まずは最上流部。今ではすっかり荒れてしまった旧一三号国道。万世

大路とよばれたこの道は、明治一四年に完成した米沢と福島を結ぶ輸送の大動脈であった。今では何の面影も残っていないが、大平・二ツ小屋などの宿駅が栄え、遊女屋まで存在したという。

同時にこの地域は、金・銀の採掘が行われていた所でもある。赤倉沢などには、小屋あとやズリ石の山が残っている。

また炭焼きも盛んであった。沢ぞいの随所に釜跡が残り、山と共に生きた昔の人の暮らしの名残を、今に伝えている。

烏川は、かつてはイワナ釣が盛んであったところである。しかし、今ではその姿もめつきり少なくなった。小さな釜にイワナが悠然と泳いでいるといった以前の姿に戻ることはもつたないのだろうか。

